

令和5年度 学校関係者評価報告書

令和6年2月20日

午後2時10分

学校法人双葉学園 ふたば認定こども園双葉幼稚園

学校関係者評価委員会 16名

1. 本園の教育目標

①自分で考え行動し、最後までやり抜く子 ②優しく思いやりのある子

③伸び伸びと自分を表現できる子

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

幼保連携型認定こども園教育・保育要領を踏まえて、一人一人の園児に寄り添った質の高い教育・保育を目指し、非認知能力の涵養に努める

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	幼保連携型認定こども園教育・保育要領の十分な理解を図る	A	園外研修に積極的に参加していることもあり十分な研修計画が行われた。園内研修も充実しており基本的な理解が得られた。より理解の度合を深めるためにさらなる取り組みが必要である。
2	より質の高い教育保育の達成のための教職員間の連携体制	B	積極的に参加している保育教諭がいる反面、昨年同様、保育担当の関係上なかなか研修会への参加が出来にくい保育教諭もあり、その分園内研修の充実を検討し取り組んできた。
3	非認知能力の重要性と幼児理解ができるように努める	A	それぞれの保育教諭が園児に積極的に係わって認知能力の育ちだけではなく、Grit 等点数化出来ない非認知能力への育ちを促した。
4	EPBM を活用した保護者への情報提供	A	近年提供されている情報をもとに行われている政策立案についての情報提供を行ってきた。
5	保護者との円滑な連携に努める	A	こまめな連絡帳のやりとりや充実したおたよりで保護者との円滑な関係を築くことが出来た。

評価 (A・・・十分に成果があった B・・・成果があった C・・・少し成果があった D・・・成果がなかった)

4. 学校評価の具体的な目標の総合的な評価結果

評価	理由
A	新たな5つの項目に関して重点的に取り組んできた結果、一人一人の保育教諭が本園の教育目標を意識しながら保育に携わっており、専門知識の習得に関して園内外の研修を継続して行っている。しかし、いまだ習熟度に格差があるが、自ら積極的に研修会等に参加しており、勤務に対する意欲や態度において充分評価ができる。

評価 (A・・・十分に成果があった B・・・成果があった C・・・少し成果があった D・・・成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	専門知識習得	教育保育要領の内容に対するより深い臨床的理解が進むよう取り組む
2	保護者への情報提供	積極的に新たな教材研究に取組み、園児が登園を楽しみにするような教育保育内容を図るようお互いが情報交換をしながら創意工夫に心掛ける
3	教職員間の連携強化	保育内容のお互い検証し合うとともに、現状を共有化し更なる積み重ねを目指し、新しい教材の発掘や専門的な知識を習得するよう努力する

6. 学校関係者評価委員会の評価

職員一人一人が、本園の教育理念に則り、自分の個性を活かした環境を整える努力が見られた。幼保連携型認定こども園の要領の理解には、概ねできているものの職員によっては理解度に格差があり不十分どころが散見されるので、継続的な学びが必要であると感じる。多くの職員は、本園の教育目標をしっかりと理解して保育に取り組んでおり、子ども達の成長が感じられた。教職員同士の連携が良く出来ていて、保護の対応にも成果が見られる。今年度も苦情は出なかったことは評価ができるものである。今後も更なる向上を目指して園づくりを行って欲しい。